WASON
HQ
1104
J74+

THE WOMAN'S MAGAZINE.

女學雜誌

明治二十年九月十日刊行

每土曜日發兌
一冊正價五錢
府內無郵送税

第七十五號

Sept 188 no. 7

東京　女學雜誌社

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 75. SEPTEMBER 10TH, 1887.

第七十五號

EDITORIAL:—What do the Girls in School Aim?
LEADING ARTICLES:—Woman's Culture, by Mary Holbrook; Woman's Education, by Dr. Spinner (Concluded).
MISCELLANIES:—Three Princesses of "King Lear": No. III; Aphorisms on Education by Dr. Spinner; Influence of a Mother's Mind on the Milk; Introduction to Mrs. Kimura's Biography, by Mr. S. Shimada.
CRITICAL NOTICES:—"History of Woman's Right in Japan and Western Countries" (Seiyo Nihon Joken Yenkaku Shi) by K. Tatsume. M. A.
NOVELS:—"The Fragrant Rose": No. IX.
CORRESPONDENCES.
GENERAL NEWS.
ADVERTISEMENTS.

●社說　當今女學生の志は如何
●論說　女子の三育（女敎師ホルブルック氏）
　女子敎育論續篇の二（獨乙國博士スピンチル君）
●叢話　三人の姬○靑年立志の法則（スピンチル君）母親の乳○故木村鐙子小傳の序（島田三郎君）
●批評　文學士辰巳小二郎氏の西洋日本女權沿革史を評す
●小說　薔薇の香第九回（月のやしのぶ）
●寄書　幼稚園保姆の資格（文英）（龜山てい）
●新報　十九件
●特別廣告
●廣告

○女流小言漫錄（其四）

○女の口數ゞ多きはあしきものと前にものべたるが、さりとてあまりに無口なるも對手の人の迷惑なるものなり、凡そもの丶中庸を取ると云ふ事は極めて六づかしき者なれど、常にほど〳〵に物事を成さんと心懸くれば、自然と其成功を見るを得べきなり。

○婦人は多く鬱氣に陷ちいるの傾あり、母親の顏色の如何に思を勞し、敎師の擧動に心を痛め、其他朋友の間より、親戚の交り、己れの身上に起る些細の變化などに至るまで、いたく氣を使ひ、不幸にもあらざる事を大なる不幸のように感ずるに至る、これ等は、輕走にして騷しき婦人に比較すれば少は好ましき處あるも、今少く心を大膽に持ち思を廣くなさゝれば、到底有要なる働きは爲し能はざるなり、余は世上不幸を歎ずるの婦人に云ふ、君等もし憂鬱の淵に己あらば、何れの日か壯快の結果を君等の事業上に見る事を得ん、今日は沈思默考の時に非ざる也。

○低頭壹回、亦た一回、上り口で一回、座敷で一回、座定て又一回、噫婦人の來客ほど低頭の多きはなし余の如き武骨者はこれか爲め常に苦しむ處なり低頭の多きはさのみ利益ありとも思われず、如何のものにや。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌第七十五號

明治二十年九月十日

●社説

○當今女學生の志は何如ん

魔糞公とは世を忍ぶ假の名眞とは何某と云つて英國に有名なる近代の哲學者が申したる語ばに、人間が着物を用ゆることゝ相成りたる其初めを考がうれば抑そも己が身躰を保護せんとの思ひよりして起りたるにはあらず、全く其身を飾りて人に賞められんと欲する一種の情慾心よりして起り來りたるものありと云へり。之は甚だ不思議なる議論の如く聞こゆれども少しく思を運らすときは餘程面白き眞理を含み居るものと悟らる。先づ野蠻人が未だ衣服と云へる程のものを用ひざりし當時の昔を思ふに此時すでに其顔に入れ墨し其躰にほり物を畫き又は赤青なんどの色土を塗りて專ばらお化粧の事に注意したり、然るに智識稍や發達して或ひは草を以て衣を編み皮を以て服を造り先づ着物と稱してさしつかへなき程の者を用ゆることゝ爲りたる當時もなか〳〵之にて寒を防ぎ雨を凌ぎ以て躰を保護せんなどとの考はなく全く人に見られて賞められんとの思ひのみありしとあり、左れば或る蠻人が立派の上衣を着け意氣揚々として歩み居たる時驟かに雨降り來りしかば直ちに彼の上は衣を脱いで之をたゝみ素躰にてぬるゝを厭はず參りたりと云ふ奇談あり是れ即はち衣服は身躰を護るの具にあらずしてたゞ身の飾りとするが爲めなりとの一つの證據とあるべし。此故に人間稍や開化して身の廻りに立派の着物を着くることありしより此のかた今まや綾羅錦繡を着て御裾長やかなる姫御前若しくは細腰蜂の尾に似て服裝天の使の如き洋婦人に至るまで其元を窮むれば亦是一種のお化粧と云ふの外なく但だ昔しは直ちに肉躰の上に飾りを爲したるが今は之を身に着くる衣服の上に現はしたりと申すの差ひあるのみ要する所ろは人に賞められんとの考が大に進化して斯く高尚となりたるものと云はざるを得ざる也。

抑もお飾りと云ふとは即はち己れの美を示して人の愛を引んとの慾心より起るものなれば凡そ生きとし生けるものは如何なる動物にも多少は必ず之れある所のものあり、先づ鷄鳥雉子鴛鴦の如き鳥類は何故に雄のみ美しくして雌は左程になき乎と云ふに必竟雄の數雌よりも多ければ自然雄と雄との間に妻爭そひを生じ羽色の奇麗にして雌の心を迷はす如きものが勝を制して配偶を得ると云ふ眞とに奇妙なる自然の調合が數

萬年の間だ行はれたるゆゑなるべし、故に雄蟬が鳴て聲のうるはしきを誇り玉虫が色のうつくしきを雌に示さんとて火に投ずる如き又は牡猿に毛髮の垂れて數尺に至るものあり其の裝ほひを立派にしてたゞ牝を迷はさんとするが如き何れも其身の飾りを以て他の愛を引かんと欲す實に是れ一種のお化粧に過ぎず前に申したる蠻人が躰を飾り開化人が衣服を飾ると固と同樣の元因に出るものと知るべし。

扨て右の如く物事の理屈を悟るときは上みは鵲の橋を渡す雲の上人より下もは赤帶を後ろに見て手もて撫でまわす娘連に至るまで幾分の心にはづる所あるべし、但し此の人々は虫鳥獸の如きものに比較されては反つて左程にも思はざる所以もあらんか、左らば彼の維新前後に所云る勇み肌と稱へたる放蕩者が身に九紋龍のほり物を爲て特更に人前に素躰となり其ものようを示して大なる得意としたる景况を思ひ見るべし、眞に卑しむべき下等の考へなりと思はるゝと勿論ならんが今ま茲に美服を裝ほひ立派なる樣姿を爲すものあらんとも其思はたゞ之を人に示して自らほこらんとの考に過ぎずとあらば其心術の卑しむべきとは別段かの勇み男の所置に異なるところなかるべし、彼と此との相違は只だ脱き出しにしたると覆ひたると下手に飾りたると上手に裝ほひたるとの差ひのみにて云はゞ淺間山は富士山より低くゝ木綿の着物は絹服よりも粗末なりとするが如し其山たり衣服たるとは左らばとて何も變りなかるべき筈ならずや。故に洋服の貴婦人中にも九紋龍を現はして得意とする男に伍するものもあるべし十二一重の奥方にも猿玉虫と同樣の考あるものもあるべし氣の毒の至りなれども眞に笑止と云ふの外なきもの也。

但し此のお飾り主義一に所云るお化粧主義なるものが只だ婦人方の衣服身の廻りの上にのみ行はるゝとならば吾人は今殊に之を喋々すべき程の必要もなかるべきが茲に此主義が尤も隱密なる裝束を爲してかの堂々たる女學校の教師及び生徒方の間に行はるゝに至りては最早や一言の戒しめを猶豫すべき時にあらざるべし。

今ま先づ少しく思ひを女大學の時代に反へして昔日女子は何如なる敎を受けたりやと考ふべし貝原篤信氏云く

女は陰性なり陰は夜にて暗しゆゑに女は男に比ぶるに愚かにて目の前なる然るべきとをも知らず又た人の謗るべきとをも辨まへずわが夫わが子の災はひと成るべき事をも知らず科もなき人を怨み怒りののろひ或は人をねたみて我身ひと

り立んと思へども人に憎まれ疎まれて皆な我身の仇となるとを知らず最もはかなく淺猿し子を育つれども愛より溺れて習はせ悪し斯く愚かなるゆゑに何事も我身を謙くだりて夫に從ふべし古の法に女子を産めば三日床の下に臥さしむるといへり之も男は天に假へ女は地に像どるゆゑに萬のことにつきても夫を先に立て我身を後にし我なすところに能ことわりとても誇るこゝろなく亦た悪きことと有て人に云るゝ迚も爭はずして早くあやまちを改ため重ねて人に云はれざるやうに我身を敬しみ又た人に侮どられても腹立いきどほることなく能く堪て物をおそれ愼しむべし。

右様に覺悟すれば其功徳にて始めて「夫婦の中おのづから和らぎ行する長く連ろふとを得べし」若し少にても此の心得なくば直ちに去らるべしと敎へたり、斯る戒めを以て女の敎となしたる當時は女は餘まり學文せざるが宜しく讀書手習ひ眞に一と通りの淺はかなるとにて十分なり餘り執心すれば反つて身を害ふの元となり家を亂すの階となるを恐れたり。故に昔しの婦人方は成るべく愚の儘に在つて心を研かざるを專一としたゞ何事にも唯々と從ひ夫を天の如く男子を神々の如く敬まひて自らの氣儘を制すれば則ち女道を盡し得たる貞女淑女賢婦人と稱したるものなり、此時に當りては學文せざる事卑屈に安んずる事人の言ふまゝに從ふ事が即はち他人の愛を受くるの德となれり然らば何如なる女子も此様に思を飾ざり只管らにかゝる心得方を得んとをのみ稽古したると也。

然るに維新帝政の有難され文明の風率土の濱にまで行わたりて男女同等の天理も明らかに四海の内に現はれ出でたれば今に於て右様の女大學を主張する人もなし女子は男子に劣らず勉強してあつぱれ丈夫を巾幗の仲間にも養成すべしとの事普通の議論となり女學校の増加するとは夏の雨よりも多く女生徒の學文に勉強さるゝとは當節の殘暑よりも尚ほ熱つし眞に慶喜感服の至と云ふべきものなり。但し此際父兄が其娘に學文を勵ますは何の志ありて乎常人が寢食を忘れて學課に苦勞するは何の志ありて乎又た學校の敎員が色々と科業の撰び方を工夫し天下の男子方が女學を隆んにせざる可らずと論辨さるゝの深意は抑も何の邊にありて乎一應伺がひ置きたきものあり、若しも

今時は古しと違ひ女なりとて學文せざれば兎ても世に立ちがたく候第一讀書に達せざれば商家の妻にも成れ申さず況して學者風の人にても嫁はさんとには是非高等の學文を致

さねば相成らず洋行がへりの士君子がたには自然西洋風を
　心得たる婦人ならずは親睦の程も覺束なく候

と云へる樣なる目的にてもあらんか、斯る志を以て父兄は其娘に學文を仕込み娘は此のやうに學文せざれば良緣の口に應ずることは出來がたしと奮發し學校の教師は此の需要を見抜いて私共は當今の女子に一と通りの學藝を教へ卒業后直ちに嫁入すとも恥かしからぬ程に仕立申すべしと廣告し世間の男子は自分どもの望に滿足すべきやうの女生徒數多出よかしわれ其の社會に打入りて花々しきものを撰び取らんとの覺悟を以て女學を主張すと申す眞に是れ女大學の時代貝原流の父子師弟と抑も幾干の差ぞや、昔しは學文せざるが人に好かれたれば學文せずと云ふ今まは學文せざれば緣組も覺束なしとて勉學すと云ふ學ぶも學ばざるも共もに其身を飾る目的に過ぎず彼と此との相違はほり物をすると錦を着くるとの差のみ勇み男と御殿女中との差のみ畢竟ずるところ斯る女流は何ぞかの猿の毛を長くすると異らん猿猴同樣實に淺猿しき動物なりと云ふべきものなり。

嗚呼當今の女學生諸君よ、諸君が日夜學文に熱心して或は英學を學びたる上に佛語を習ひ和文を書き覺ゆる上に漢文の小口をも心得筆算唱歌は固より琴ヲーガン、ピアノ、バイヲリンに至り香茶花割烹西洋料理法に至るまで悉く身に修めらるゝの志は如何ん、只だこれ一種の開化したるお飾り主義を越へず專ら一身を化粧して他の愛を引かんとの目的に出でざるか如何ん、女權伸びず女學達せず婦女子が慷慨奮起すべきの時今を置てそれ何の時ぞ、而して諸君が志す所は果して何の點にか存する。

● 論說

○女子の三育

女教師　メレホルブック述

顧みればアメリカ、イギリス、ロシヤ等にては婦女子の爲に男子に劣ざる教育を施して居ます而して又御國の有樣を見ますれば矢張皆樣御奮發にて何方へ參りましても女子の教育女子の教育と申して援て居らせられますから實に喜ばしき事と存ます

扨此儀に付或る人の考へに斯く婦人の教育を重ずるに至りしは如何なる所以なるか昔と今と全く婦人の性質が變りたる者かなぞ怪しむ御方が無にしも非ざれども決して左はありませんまい是は世の中が文明に進むに從て婦人の教育が必要となる

ものなれば女子の然らしむるに非ずして世の進む表で有りましやう。

茲一につの例を擧れば彼の重り時計を見られよ時間の進むに從て其針先の進むは何の働なる哉重りの働に因るか否引力の働なる事は皆様の能く御承知の處でありまするヶ様に敎育の盛なるは御互様に喜に堪へざる事にてあれど小女は其内一つの憂ふ可き處が御座ります其ハ外の儀でも有りませんが御國の姉妹方は敎育と曰へば只知育に而已御心が奔りて其餘の事ハ更におかまい無き様御見受申ますから私は少しく感ずる處に加ふるに米國女敎師の説を以てして御話に供せん者と存じます。

扨眞の敎育と申す者は三つより成立たる者にて則ち德育智育躰育と唱へ此三つの者は寸時も離れず並行して參らねばなりません今これを譬へますれば鼎或ハ五德の足の如き者にて何れぞ一本不用と曰ふ者はありません故に鼎にして一本の足を失へば立つ事が出來ますまい是の如く三育の中一つを缺きたらんには眞の敎育とは申されません故に些少か眞の敎育を御勸め申さん爲に今これを三段に分ちて御話申ましやう乍去其前に一寸御斷申度事あれば左に

昔其名も高きギリシヤの國にヘリクラタスと曰ふ學者ありて其名最も高く世界に廣まりし處より隣國の人々此學者を慕ふ事慈父の如くして遠路も顧みず學者の人となり或は其住居の壯麗なるとも見んとして其家を訪けるに思ハざりき其學者茅葺の小屋に住ひ臺所の圍爐裏に焚火して暖り居らるゝを見て大に驚き直に歸らんとせし其時學者曰ける様我家は御覽の通り貧しき家なれども併し神は茲にもありと曰へりとぞ此の如く今日私の御話し申す處拙なく且つは德育而已に非ずして三育に就て御話申ますれば定めし皆様つまらぬと思召されて直に御歸の御心が出るも計り難き事と推しますれど併ヘリクラタスの言の如く茲にも又神があるかも知れませんから暫時御忍耐を願ます扨躰育に就てフヒトーと曰ふ學者が申ますに心の善良なる人は肉躰を安全に保ち得らるゝ者なれど肉躰は獨り精神を助くる事ハ出來ぬ者と申されましたが之は誤りと存ます如何となれば肉躰と精神とは相助合ふて其働を爲す事は恰も彼の船に用ゆる帆と檣の如き者にて有りますれは二つとも離るゝと不能者で御座ります其故に先働を爲さんと爲るには肉躰を健に致さねばなりません扨これを爲んには毎日時間を定めて食事を爲し日光の照す處にて運動爲さるゝ時ハ最と

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

著しき益ある事ハ百性の身躰に顯ハれて居ます則ち奥深き宮殿に住ひて日光を見ざる人は瘦せて青白く其肉躰甚だ微弱ある者で御座ります然かるに其に反して百性は肥太りて常に健康にして勞働に堪へますれば之を見るも日光を受て運動する事の必要ある事が分ります併し女學校の有樣を見まするに運動時間に勉强あされたり三度の食事の外に貪食なされたり睡眠時を冒して工夫なさる方もありて往々躰育を疎になさる樣見受られますが夫ではちと敎育の道に戻りて宜からぬ事と思ひます何卒文明國と野蠻國とハ何の原因に依る乎御調あされて御厭ひでも勉て運動なさるゝ時ハ遂に習ひ性とありて自然運動が面白くなり已に克つ時ハ貪食も止み又睡眠の時間も不足せざる時ハ恢復し難き腦髓を破るの恐れもなく實に安全なる事で御座ります左ハ申す者の今ハ女學校にも正しく規則も立て居まずれは申にも及バぬ事あれども御注意迄に申置ます扨今一言申上度事ハ衣服の事にてありまする私曾てより御國の衣裳を見まするに其品柄並に其色合は甚た鮮やかにして他國の及バざる處と常に羨む處で御座ります併惜むらくは其仕立方充分身躰を纒ふ事不能故に少し改良致したら能き事と考へて居ましたが幸ひ今日は間々公に洋服を用らるゝに至れば其用ひ方を一二御話申ましやう。

御國は他の國に比すれば水氣勝にて空氣中に多くの水氣を含みて居ますれば是が是に屢々風邪に冒さるゝ事がありまず其故に此害を免れん爲にメリヤス或ハフランチルにて長き膚着を造り膚付に着る時ハ水氣を遮りて病源を滅し身躰を健に保ち得らるゝ者で御座ります其より進んで其上に下服を御着にあります時一々腰に結び付るは常なれども夫にてハ其重みを皆腰に負ハせて其が爲全身に害を及ほしますれは膚着の腰の處にボタンを付て其に下服を掛て着らるゝ時は少しも害無き者でありまする次にコルセットを用ひらるゝ方は合せ目の處にゴムの紐を付て用ひあされバ屈伸自由にして呼吸の害にもあらず却て身躰を直くする益ある者で御座ります此内御話申度事は多く御座りますか先茲にて止め今より智育に就て御話申します。

扨是より智育に付て御話し致しますが併し是ハ已に實行なさるゝ處でありますれば只一言智育の大要を述る迄で御坐ります御國の有樣を見るに最と喜ハしき事ハ智育盛に行はるゝ事で御座ります左りあがら其敎育法を見るに凡そ七歳以上に至らざれバ敎育を始むる期に非すと爲らるゝ樣見受られますが

果して然らばこれは大なる誤りと存じます如何となれば幼稚園の敎育を設て基礎を固めざれば成長の後賢者智者と爲す事は萬々能はざる事であります故に幼稚園の授業法に習ひ幼き小供には一つの音を三四度繰返して敎へ或は實物に就て其形や色或は其用を敎へ物に觸るゝ每に之は何の用を爲すかと考へさせる樣注意して樂しませながら敎ゆる時は十分工夫の力を發育して成長の後は容易に學問を治むる事を得ますれば第一記臆すべき事は幼稚の敎育は成長の後より一層必要なる事であります。

是より前に溯り德育に就て御話申ます私し曾て聞く處に依れば亞弗利加の土人長某は耶蘇敎を信じて遂に洗禮を受んとする場合に及びしが同氏は曾てより二妻を持てる人なりし故此樣にては該敎を信ずる事不能を深く心中に困み其思外に顯はれ殘酷にて一妻を殺して食となし遂に神の定め賜ふ一夫一婦となりて信者となり少しも其罪を感ぜざりしとか聞きましたが何と眞心の暗き事は恐ろしき者ではありませんか去り乍ら私共は此所行を見て其罪の深き事を知りますれば亞弗利加より御國を見る時は眞心の强くして明らかなる事は數等の上に昇りて居ます殊に私共は御國を亞細亞のフランスと申します如何となれば姉妹方の洒掃應對甚たしとやにて誠に感服に堪へません古の例に十分は缺くるとか申しますか最と惜むべきは少し缺けたる處が御座ります其は何かと申ますに私は七八年前より御國の姉妹と親しく交際して經驗する處に因りますればたまには言行相反したる事が御座ります樣に思ひます然らば是は何の源因から起りたる者かと申ますれば全く神より出たる心の敎育無きに因る者で有と考へます左れば心を敎育する道無き哉と問ふ時は否無きに非ず御國には神道と云ひ或は儒敎或は佛法等數多あれども此等の敎は月や星の光の如き者にて幾分か心を硏く力はある者と考へられますが大陽の如く明に照す力がありませねば人の心の底迄も照し全く改良する事の出來ぬは當然の事であります併し獨り基督敎は神より出たる敎にてあれば是を深く信ずる所の人々は全く腐敗したる心を改良されて一國の上には大なる良結果の顯はるゝ者てあります因て今其一證を擧て御話し致しましやう。(未完)

○女子敎育論（續編の二）

獨乙國學士　スピンチル

美術に至ては余は決して之が爲に多言するを好まず然れども美術は婦人の依て以て家計を飾る者なれば婦人の或は音樂に巧に或は圖畫に精く或は詩術に或は外國語學に各々得る所あ

る は實に嘉みすべく且つ要用あることなり然れども此等の技藝は婦人能く生計の道に通じ凡ろ其緊要必需ある者は盡く之を習熟したる後始て之を修む可き者なりとす。

右の如く發育したる婦人は實に一家の財寶なり斯る婦人は其兩親兄弟姉妹良人及小兒等に悦と幸を與ふるものなり良敎育を受けたる婦人の躰中に存する財寶に比すれば有形の財寶は全く其價値を有せざる者とす蓋し貨寳は概ね運命の變遷するに際し甚た危險なる者なれども有形の財寶は決して消失するとなしとす假令へ嫁資の數万金を齎すと雖ども婦の世務に暗く奢侈是れ務むるに會へば其れ之を如何せん。

吾人の斯く女兒に對し要求したる其處身行務に關せる發育は凡そ女子たる者の爲めには其結婚せざる者と雖ども實に一大要件なりとす良家政者たらしむるの目的を以て養育發達させられたる女子は必ず社會に立て堅固の位置を得ると難からざるなり何となれば國は只一大眷族たるに過ぎざればなり。

學校に於て屢々其女兒を養成すべき義務ある事を忽諸にすると多し中等及び高等女學校にて其生徒を取扱ふと恰も男子を取扱ふが如くし智識の發達に至ては其要求實に大なり若年の女子十六才に至る迄には女子とは全く其生活の目的を異にせる少年の十八才又は廿才迄には卒業する學課を必ず終へざる可らざらしむ世人婦人精神上の高尙なる發育の事を囂々する者あり而して此の如き誇大虛妄の主義漸く日本國内に輸入したるは實に歎ずべきなり其説に依れば心情と意志とは婦人の爲には要件あらざるが如し固より女子は無學者あるを宜しとすと云にはあらず然れども世人婦人を遇する高尙に過ぎ之をして其應に在るべからざる位置にあらしめんとす之を譬ふるに斯る婦人は恰も星辰の間に往來し却て堅固の地上に躓く者あり世人は宜しく深く注意して彼の高尙なる敎育を務むるに當り傍ら秩序を守らしめ良行を勵ますとを怠らざるべし、

歐州にては生長に中したる女子をして他國の語及び他國の風俗を習はしむる爲に他國へ遣し「パングシオナート」に入しむるを習とす然れども人却て大に過ると多し蓋し此目的に備たる敎育所は大概完備の敎育に便利ある地に在る者稀にして却て外見に流れしめ奢侈に陷らしめ唯身躰の粧裝にのみ從事せしむるに至る故に斯る女子は浮跨に巧に且つ外見を飾るとに達すと雖ども思想と心情とは却て虛忘たるを免れず故に女子を此敎育所に遣したる父母は偏頗の敎育を受けたる女兒の歸鄕せるを俟る〻者多しとす斯る惡風を去らん爲に學校敎課卒

業の後專ら實務的の發育を得んが爲に家政學校料理學校婦人職業學校等を設立し大に其效を見ることを得るに至れり。

吾人の今日務むべきは完全の家庭敎育を卒へ完全の學校發育を終りたる後後世子孫の女敎育師たるべき吾人の女子をして實務上の發育を終らしむるにあり婦人をして常に其職務の大抵に向はしめ家務に慣れしめ質素にして好て用を爲し必用の塲合に當ては又身を犧牲にする事を肯んずべからしむるを要とす世人若し婦人を其精神思想及稟性の發達の爲に尊敬せば則ち其婦人を鍾愛尊敬すること實に大なりと云ふ可きあり。世人女子を敎育し以て他日の女主を養成するに當ては其をして得て幸福を享けしめ施て之を他人に及ぼさしめんことを是れ務むべきなり。

●叢話

○三人の姫　（第三段）

扨てもカイアスと字なしたるケントの忠僕は日に心を凝めて老王に侍づき切めて其が心中の欝を慰めんとするの誠万事に現るればる老王は二なきものに思ひて日毎に之を愛し親しまれたるが之と共にゴチリル姫の冷遇を感ずるといよ〳〵强く今まは殆んど堪へがたきに至れり殊に或る時姫が申すようは當今此の殿中に寄寓あらせ玉ふて尙ほ百人の士を備へ玉ハんと無用に似たり之を悉く放ち解かれて然るべく思ひ候と云ふに王は餘まりの亂暴に暫しは姫がまことの心を以て斯く申すや何如にとあやしまれたる程なり、扨て〳〵惡くき不孝もの哉後にぞ其の天罰に思ひ知らん願ハくは四方の神々此の不孝の娘に一生子一人をも與へ玉ハざれ若し神慮によつて之にしも子を與へ玉ふとあらば請ふらくは其子の暴逆に依つて娘に苦腦を下し凡そ我が兒より不信切の取扱ひを蒙むるのつらきは蛇の齒にかまるゝよりも尙ほ苦しきとの思ひを自からに知らしめ玉へと祈願しつゝ早や用意して仲の姫の許に移らんとす、チルバチー侯は此時に至りて恐る〳〵出會しわが妻の足らざるより斯く逆鱗に觸れ奉まつると一に臣が罪あり何卒一度び御許容ありたし臣が全たく預かり知らざる所なれば陳謝したゞ〳〵外面を繕ろひて儀式ばかりの止だてす、憤激烈火の如き老王は耳にもかけず早や馬に鞍置けと命じて急き飛乘り從者を隨へて馳け出で乍ら嗚呼々々之に比らべて末の姫の言葉を思へバ彼が少さかの不敬の答へは長姫が今まの不孝に比べて抑も幾干の差ひぞや吾れ不明にして之を遐ざけながら斯る不孝の子に數多の權力を授け今まは反つて其權力によ

りて此の老王を苦しませしむるを得たりと馬上に長歎して泣いたりける。

前號第二段の中七四頁上段第十八行「兼ねて一身の」ヨリ第十九行「悉く散らし」に至る迄は削除すべし

此時レーガン姫と其夫コルンヲール侯は老王の分賜に益ます富を加へて榮華きはまりなく暮らし居たれば老王まづカイアスを前に送り之れより約の如く其の許に至るべし急ぎ準備ありて可然とは觸れしめぬ、然るにゴヲリル姫は己が惡意によつて王を怒らせたるに王もし妹の許に行いて相應の取扱ひをだも受けられんには己が怨まれん程も恐ろしとて王の出で行かるゝと共に使を走らせ妹に文を送りて云へるようはわが父老いて甚だ頑くなゝるのみか此の期に至りて尙ほ百人の士を召し連れ御氣儘の程申すもはづかしき程あり之より若し御身が許に住まわれんには其煩らはしきと無上あらんと思いるゝに付き豫かじめ知らせ參らす決して父を其儘に請けて數多の人々を介抱し玉ふべからず後に至りてさぞかし難儀ならんとの文意なり此書を持ちたる使ひ恰かもカイアスと同時に先方に達せんとはしたり、カイアスは此の使が何樣にて彼處に參るやを知らざれども兼ねて吾々がゴヲリル姫の許に寄宿する折主の威をかりて老王につらく當り無禮過言を申したると數しれず平生にくし〳〵と思ひたるものなれば之を見るより怒氣滿腔に起り喧嘩を仕掛けて之を打ち殺ろさんとしたるに彼れ十分の恐れをいだきて刄對ふの勇なく甘く脫して逃れんとするにぞ卑屈の奴わが拳を食らへと猛けりて甚たく之を叩き倒ほしたり。

此事レーガン姫の許に聞こえたれバ以ての外に怒りたとひ父よりの使者ありとも容謝すべきにあらずとて直ちにカイアスを縛し足にあしがせして之を繫ぎ置いたり、左れば老王が此處に到着ありたる時先づ最初に其心を痛ませたるは即ち此の一事なるべし、然るに老王の身にかゝるべき不幸の前兆は之のみならず到着後姫は今夜遠き運動を爲して甚だ疲れたればとて其夫もろとも出迎ひをも爲さず老王殊の外の不平にて斯る失敬の禮やある必ず出でゝ對面せよと仰せあるにぞ仲の姫レーガンしぶ〳〵ながらに立ち出でたるが此は何如に彼の姉あるゴヲリル姫と共に手を携へて老王に見へたりける。

○鹽原入浴の記

鈴木弘恭

那須の原をうちすぎて。

「後はまた名のみのこらんあすの原あらき田ばかりなりぬとおもへば山ふところにありぬれバ關谷村あり戶のかずも四五

十あるべしすこしいこひでまたゆく人のものかたりに是より鹽原にいたるまではいみじうけはしき山さかのみありと聞しをたゞ平らかにしていとやすしこはれいの新道あればなりすべて左は谷右は山あるがところ〴〵に板橋をかけわたして大小の瀑布かずもしられずありけしきのよさに道程も近き心ちしていつしかとも思はぬに鹽原村にいりぬ」山のすがた岩のたゝずまひ木どものかたちにいたるまでたゞならずうちみられて先人黄軒翁が此所に來たまへるとき無情草木向人幽とくちすさび給ひしことなどおもひ出でらるめてのかたにおふき見ればひるなほをくらき森の陰よりほどはしる水の三十丈あまりもひたくだり下るあり見返瀧とて道すがら二無き瀧なりこれに添てかけわたしたるを見返橋といふ天の川の空より落つると唐人のいはれたるもかゝるたぐひにやとれぼゆ

「くりかへしみれどもあかず見かへりの橋にかゝれるたきのしら糸しばしゆきて弓手のかたをさしのぞめばかぎりもしす深き淵にたぎり落る水あり猿澤の瀧といふ。

「人まねによしといふこそをかしけれ名もさるさはの瀧とおもへばはるかに家ひとつ見ゆるは大網とて此の道の口の温泉なり近くなるほどに家は路のかたへにあれどいでゆはつゝらをりを下りて箒川の東岸にありてよく腫物の類を治すとぞ川の中にこゝしき岩どもあまたありて水の青き所を見ずたぎり流るゝおとあたかも雷の如し此のすこし上に區々龍の瀧ありまた魚止の瀧ともいふ川下よりのぼりくる鮎なども是より上にのぼると能はずして此所にて漁夫の手にえらるゝとぞさるは大網のふくろに入れる魚の如くあれば大あみとは名つけたるにや景色あか〳〵に目もおよはず。

「もろもちになひ出さん歌もなしめもおよばざる大網にしてながれにそひて兒淵、布瀧などありさてみちはつきはてぬるにやと思へば墜道あり長さ十五六間濶さ四間ばかりなりいとあつき日が寒き心ちして打過れば福渡戸あり土人はふくわたとのみいふなり家居のきをならべていとにぎはへり温泉はれいの懸崖を下りて沿岸にあり。

「たちのぼるいでゆの烟のどかにてふくわたりとぞにぎはひにけるうちすぎてゆけば川の中に大なる岩あり土人野立石といふむかし蒲生氏郷がこゝにいこひしといふ水をはなるゝと二丈ばかりなるがおもて平らかなれバ今ハ假りに茶亭をまうけてあり往來の人これにいこうめりはつかにゆけバ天狗岩と

いふあり路の右に聳えてその高さいく百丈にかあらん上に松の老木あまた茂れりふりさけて見るにたゞかしらの上にさしおほひていとおぞましこのわたりよりは谷やう／＼あさく水のながれいさゝか穩かなり鹽釜といふにいづ家居は七つ八つばかりなれど浴客のやどるべき家なし。

「もしほやくけぶりにはあらで鹽がまにたつはいでゆの烟なりけり」畑下戸などいふを左に見て箒川の橋をわたりて古町なるなかの會津屋といふにやどりぬ此のあるじは君嶋寅吉とてその祖の會津より出たる人なるにや家もひろらかにて三階につくりなして家のうちに温泉あればいとたよりよし」東京より此所にいたるは四十八里ばかりあれどおのれ今朝家をいでゝいまだ四時三十分ばかりあるに宿につきたり何事もかくいにしへにためしなきことのみいでくるは大御代のたまものながらいとかしこしともかしこし」まづ入浴してでうどゝもとりひろげて硯とうで筆とりてふみひとつか二ついつけて家にまうしつかはしつそのたくに。

「きて見ればからくもあらずきゝしより打開けたる鹽原のさと夕日のかたぶく頃雨いさゝかぶり出たれどまたをやみぬ」

八日ていけよし午のときすぐるほど小雨ふりいでたれどしばしありてはれたりしかしてまたうちふるけふ京の人々におとづれすとて郵便につく」

九日あしたのま雨ふり八時ばかりにをやまんとすいでや近きわたりみてこんとてあないのものをともなひてまづをとつ日すぎゝつる鹽竈へとうちいづ道すがらにとへば鹽原は下つけの國鹽谷郡の北のはしにて東西は五里あまり南北は四里にすぎず上中下と湯元鹽原の四村にわかれ家のかず百三十餘ありみね／＼東西にならべれば北より南にわたりて上中下の鹽原村ありゆゑに人家のあるはひがしみなみにしにむかひてかまへたり箒川は村のたゞなかをながれて下しほばらに至りて鹿俣川にあひまたひがしにながれて中川に入るとぞ明治のはじめの頃までは猪鹿などもおほくすみつれどやう／＼にあとたえていまはつまごふこゑもきこえ侍らずなどものかたるあひだに鹽竈にきつればみちの東にある美人高尾の碑といふを見るに文字は苔むしたれど山本北山翁の筆にて高尾はむかしやんごとなきかたのために身をそこなはれたりなどいふはいかゞあらん尼となりてよし原のほとりにすみて身まかりぬともいへりそはともあれそのうまれしは此の鹽竈にて今もその家には筆のあとゞも多くのこれゝば高尾は此所の人なりしこと

れうたがふべくもあらずとあり紀念のためのいしぶみながらいとめずらし空やう／＼にはれわたりていとあつくなりにたればもとの道にかへりて畑下戸にいでつ温泉二つ三つありいへかず十あまりあるべし西の山にかゝれる瀧ありいとおもむきあり今は吉井瀧となんいふこは瀧のこなたに吉井宮内大輔の別業あればしかいふとぞ大輔のなりどころは山に對ひ水にのぞみてえもいはれぬさまにかまへられたり。
「またほかにことのばもなし　吉井たきよしといふのみまことなりけりなどいひてやどにかへりぬ。

○青年立志の法則（此の法則は論説欄内の教育論と併せ見るべし）　スピンチル

一困苦と快樂とは以て吾人徳行の如何を試む可し

二思慮は多額の利子を生むの財産なり

三人を遇ずるに寛大己を制するに嚴格なるは以て生活を愉快にすべし

四友愛は人間華徳中の最も美麗なる花なり私慾は之に對して最も恐るべき讐敵なり吾人須らく此友愛によりて以て此私慾を防がざるべからず

五汝の上に位する者汝の下に位するもの若しくは汝と同等の者に對するの行爲は一定の規律を存するとあるなし然りと雖汝の全心にある潔白と眞實とを含有するの愛情は汝何の處に在るも常に他人の好意を得べきなり

六金錢の奴隷となる勿れ金錢上に於て（借財人となり）他人より羈絆せらるゝ者となる勿れ

七總ての所業に於て果斷を有するを良しとす又靈魂上の交際に於ては明哲なるをつとむ可し

八祈禱は總て靈魂の毀害を醫するの最善良藥なり

九光陰は勉强以て之を利用す可し日月空しく逝て復歸らず

十人は各々其運命の創造者なり

十一秩序を愛する者の徒歩するは秩序なき者の騎行するよりも速かなり

十二謙遜は處女の徳行中最も愛す可き者なり

十三青年の時に方て快樂を求めんと欲せば宜しく異日回想するのとき欣然として微笑を催す可き者たるを要す

十四如何にしてか吾人は最も能く節儉し得るや曰く室中及び庖厨の秩序を整正するにあり

十五鏡に媚んより寧ろ心に媚びよ

十六妄想及び五感を利戟するか如き無用の書を遠さけ智識と情操を富ましむるの書を播く可し

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

十七女子の職業ハ必ず要用と美麗とを幷存す可きとを忘却すべからず總て女子の製作する者ハ男子の製作するものよりも形躰上美ならざる可からず

十八諂諛に耳を傾く勿れ諂諛ハ徐となりと雖必ず効驗あるの毒藥あり

十九汝若し適意せんとを求めざれバ汝ハ最もよく適意す可し

二十平和と講和とを好め之を以て總ての敵に勝を制し得可し

廿一汝が生活の終りに臨て我れハ生活せりと言ひ得らるべき如く生活を送る可し

○批評（第三十回）

(40)西洋日本女權沿革史（中本一册(七十三頁)定價二十錢發兌所本郷弓町哲學書院）

此書は文學士辰巳小三郎氏が「人の長を取り我が短を補はざるは本より愚なり我が短を補ふを知るも我が長を保つを知らざるは愚の又愚なり」と思はれ男女同等は日本固有の物なるに此事を知れるは西洋のお蔭にて二千五百年此方今日が始てと考ふるは大なる誤りなる由を辨ぜんとて先づ西洋の女權沿革を畧敍し次に日本上古質素の代より公卿政治、武將政治、の代を經て明治聖政の時代に至るまで初めは女權殊の外盛んなりしが儒教佛教入りてより大に女の地位を卑うしたる經歷を述べ近來は男は本分の智を進め女は本分の美を増すを得たり此樣躰にて進歩せば聖朝の德化なか〱男女同等男女同權でときを產出して止むべきにあらず（何如にして止むべきものにや頓と其の解釋なし）と論ぜられぬ。」我國には未だ此類の書あらざりし折柄文學士たる氏にして此の著作ありたるは女學の爲に尤も賀すべき者なり、但し全卷甚だ紙數少きが故に氏が最初「西洋の男女同等は其性質より見るも其與廢より見るも日本古代の男女同等とは大に相違する箇所あり」と述べられたる意見を明かに承知すべき解釋の見へずして止む如きは尤も憾とするところ也。思ふに伊弉册天照大神わが國に在りと云はば希臘にも女神ありと云はざる可らず上古にカンガカリありと云はゞ希臘にも女巫ありと云はざる可らずいなだ姫わかくさかべの女王及び神功皇后の如きを我に誇るとならば試にプルターク氏傳集を一讀するに如かず若し儒教佛教入らざるの前には女權甚だ隆んなりしと論じて我國の古は全く男女同等なりと云はゞ昔し日耳曼人種はよく妻を愛したり英國に封建の制なかりし以前、不文律の未だ確定せざる以前、リツトルトン等の制法なかりし以前、ヘンリー八世の遺產條例未出來ざる以前には英國に女權隆にして男女殆んど同等也し

と云ふを得べし眞に容易手輕の論法なるのみか彼此の男女同等何の點に於て相違せしやを辨ずる能はず隨ては同權の一事此の豐葦原の瑞穗國にのみ固有せし美德なりと滿足するあたはざるべし。但し天照大神神武帝の類初め他邦より日本に移住したりとせば移住民の常として婦女子を愛したるともあるべし此邊は元來土着の國民よりも少しく誇る所ありて可なりと云ふか此の沿革史亦た吾黨の緩兵なり、氏が此小冊子中の所々に插はさまれたる新思想は息まけたる雲の切々より折々眞如の月を瞥見する心地せり若し此の筆を以て更に完全したる更に紙數多き女權沿革史を起草せらるゝの幸を得ば讀者の喜びあらん

依田孝氏一夫一婦論及び藤尾錄郎氏家計簿記法例題は次號に於て批評すべし

"*The Christian Legislators Contributed largely to Improve the Legal Position of wicious in respect to Property.*"　*Lecky.*

○乳と赤兒との事

母親又は乳母の乳の良否にて赤兒の躰に大ひなる影響を及ぼすべきは無論の事なるが例令ひ平生よき乳汁を出す人にても其心持の何如によりて乳の上に非常の變化を生じ之が爲に赤兒の生命をも失はするとあるべし倫敦ランセットと云ふ醫學雜誌に記るすようは或る時某と云ふ醫師が母親の耳のうしろの腫物を切り取りたるに痛みにたへず昏倒したり斯て氣附き暫らくして乳を飲ませたるに其子乍ち死したりとぞこれ心中亂れ居り乳に變動を生ぜしゆへなり又カーペンター氏の言によるに或る母親は何か不幸の報知を得て甚だ落膽したるとき子に乳を飲ませたるが直ちに其子右の腹に痛みを覺へ左の腹いたくシビレて大に病みたりとぞ又獨乙にてある大工が通りかゝりの兵卒と喧嘩を初めたるに兵卒は劍を拔て大工を切らんとせり家の內より之を見て在たる妻は大に驚て走り出で其劍をもぎ取り大騷ぎのうち近邊の人々相集りて之をしづめたり斯るうちに妻は先づ安心して家に入り寢臺の子を下して乳を飲ませたるに今まで健こやかなりしものが烈しく身を動かし乍ら靑くなりて乍ち死したりとぞ凡そ如此く母親の心持何如によりて其乳に大なるカハリを生じ平常は何んともなきものが急はかに惡質の乳となりて其子の躰を危くするものゆへ母親も乳母も此の一事をよく〳〵用心し惣じて乳を含ます る時きは必らず心中安らかに思の平らかなるときに限るとゝすべし我國にては夫婦何かイサカヒを爲し彼此はげしく言ひ合ひたるときなど子供が傍に在りて恐れ泣くときは妻は腹立まぎれに直ちに乳房をほう張らせて無理に乳を飲ますると

り世の母たらんもの大低其子に直接の關係ある事物はよく注意するも間接に及ぼす事物に至ては知らさるもの丶如し哺乳の如きは尤も輕ろに看過すべからざるべし。

○木村鐙子小傳の序　　島田三郎誌

梅花の淡粧は櫻花の豐艶に及ばざるなり然れ共高士の花を品する者は彼れに取らずして此に取る所以の者は何ぞや其霜雪を冒して奇操を冬春の間に呈するは天の養和の節に乘じて嬌艶を百花に競ふの比すべきに非ざればなり今を距ると十五六年世人女子の教育を説く者なく婦人も亦中饋の職を以て自ら劃り兒子教育の要務をも擧げて初めより之を他人に委ぬる者比々皆是なり此時期に當りて婦人教育の要を覺り唯之を口にせずして之を躬にし自ら學び又其子を教へて以て家道を督するに至る是れ既に尋常婦人を以て之を見る可からざるなり特に眞夫の遠方に在るに際し孤身能く衰零の家を幹するに至りては最も感ずべし予年十七八田口卯吉君と駿河の郷校に相知り其後君と前後東京に出で丶相往來す二人窮する甚くして學資乏絶を告ぐると屢々なり予丶君の居に到るに屋傾き壁破れて一見其家道の衰零を知るべし然れ共其侍遇の豐厚は君の世計に過ぐるあるを覺ゆ怪みて之を他の友人に語るに亦皆然りといふ後に至りて其姉鐙君が田口君の友を待つに意を致すによれるとを知れり予の鐙君を親く知るは實に近年に在りと雖予が鐙君の知遇を得しは實に十年以前に在りて嘗て之を知らざりしあり田口君常に言ふ予の成立は姉の助による者多しと此言眞に然り今や田口君世に名ありて家道も亦興れり而して鐙君は逝きぬ、悲ひ哉然れ共其知遇せられし者の中に巖本君あり其力によりて鐙君の意を致せし校舍益々隆ならんとす古語に曰く德孤ならずと果して眞なり鐙君其れ亦恨なかるべし嗚呼鐙君の如きは之を花に比ぶるに唯梅の是に當るを得べき乎其行狀は巖本君の筆既に之を盡せり予故に親く知る所を記して辨髦に充つるといふ

●小說

○薔薇の香

第九回　心中の驚ろき　　月の舍　しのぶ

白河光が叔父は富士見町に本宅を構え芝が濱海邊に枕して別邸を置ける此の別邸は月と水と空氣とに宜しければとて一風かはりたる三宜の樓と號け公務に暇まある折々は妻子を伴なひて茲に遊ぶとしたり然るに其家たゞに此等の便宜あるのみか光に取りては先づ第一に閑靜と云へる得がたきの趣あれ

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

ば學校の課業を休みたるとき又は土曜日曜日の如き定まつたる仕事のあらざる際は大抵此所に來りて靜かに讀書の樂を取り倦めば遙かに海面の天色と髣髴たるを望み氣鬱するときは月前に物思ひの種を歎げき屢ば紅塵數丈の都市外に高尙の空氣を呼吸すること知るべし。常には留守番する質朴の老夫婦の外なし光が玆に來りたる折は大抵此の兩人を切めてもの談し合手と爲すことなるが今日は後ほど兩親も來るべしとて光が從兄にあたる山内の長男俊一と云へるが先づ光子と共に來れり一と通りの雜談も盡きたり携へ持てる書物は數枚よみたり餘まり晩ければとて夜食も先づ二人して畢りたり最早や點燈に間はひもなし何故かくは遲きやと人を待つ人は殊更に根なし語りの多きものと思はる繰反したる不遠慮の會話やうやく方向を轉じて心安同志の會釋もなく

光チヤン此頃青山君にお會ひなすつたか

イヽエ大層久しくお目にかヽりませんよ

ツウデスカ宅へも餘程長く來ませんネー何か面白ひ事が外に出來たか知らん

出來ればあの方の幸ひですがまた例のメランコリー（氣を欝して）で餘所へ行くのが何の樂しみであるかなどと仰しやてるのでありませんかホントニあの方はお氣の毒ですよ

ナカ〳〵近來はそうでないです波羅さんと交際が親密にお成なすつてから餘程變はりましたよモー今日では全くの紳士サ

そうですか（ト云つてぢつと氣を鎭める）

それにあなた未だお聞なさらないか何んでもモー約束が出來たとか云ひますぜ

どなたがですか

サヽ波羅さんと

波羅さんと何方ですか

イヽエ青山君と波羅さんとガサ

マサカ

マサカどころですか正に左樣のようです昨日もナンデス僕が芝の山内を通りますと二人連れで何處かへ行く所におひましたよ

波羅さんが若しあの方をお慰さめなさることが出來て……そしてあの方の哲學が一變したら定めし世に有益なことでありませう

ソウあなた冷淡に考へては詰りませんよ全躰あなたと青山君の交際は隨分人も知つてるとで僕等の友人間でも何かと評をして居る…評といつてアノ惡口じやアないです若しあの佳人才子相ひ約するを得ばデス定めし立派のホーム(家族)が出來るでせうシ

俊さんお聽なさいよ

マアお聞なさい、そして宅の兩親等も密かに望んで居つて誰れも彼れも大抵出來るとと待ち構えて居るです然るに今ま突然こんな風說があるですから僕も一寸と聞いたときは隨分驚いたがイヤ〱ソリヤア例のうハさだあなたと青山君の間を結び付けた高尙の友情は遂に一層の深みに至り了するに違いないと思ふて安心はして居ます……かすこし青山君の近狀を見ると……少こし疑ふ所もあります…からこうも云ひますノデスガチどうですか

それはあなた何でも好いじやアありませんか私は實に青山さんを無二の朋友と思つて居まして朋友…朋友と思ひまするより外に何の考へもありませんから

光チヤンあなたはマア僕と元來從弟同志ではあるが今ではマア同胞も同じとですそれに何もおかくしなさるとはないじやアありませんか

別段かくすとも何もありません(ト苦笑ひをして)青山さんがそう定まりましたら本當に私も喜びますワ、然し私は本當に喜びますが…俊さんあなたは定めし御失望でせう

チー

ナナ何をですか

イヽエ羅波さんがそうもしも青山さんとお極りでしたならばと申しますのです

ヤ、これはどうも早速の敵うち恐れ入りました然しそんなとは何してあるものですか、この證據はあなたがサそんなとは無いと仰つしやるとよりもシヤ更にたしかに無い所であるデス、アハヽ

アハヽとは笑ひ乍ら此時より何か氣の落付かざる風にてドウデス大層遲いじやアありませんか一寸とそこら迄で散歩して見ませう、あなたどうですか

止ませうもう暗いでせう

ナアに暗い所ろが則ハち風流です

何か分らぬ事を後にのこして其儘に立ち出で

パアや一寸つと運動に行きますよ、ドウモあの先生は分ら

ないナア…どう思つてるのか知らん…思はないのかと云ふと…アレデ余程制する所の力がつよいのでせう隨分つゝしみの深い方でなか〳〵現れさん…然しドゥモ變ダァ少しも驚いた樣子がない…イヤ矢張つよいのです…アア僕もあのカントローリングパワー（思を制する力）が欲しひナ…波羅君が青山さんとイヤ青山君が波羅サンとか嗚呼……（此時犬の尾を蹈んでワン〳〵）チ、びつくりさしたぞ

あとには獨り白河光

あなた樣お光明をつけませうか

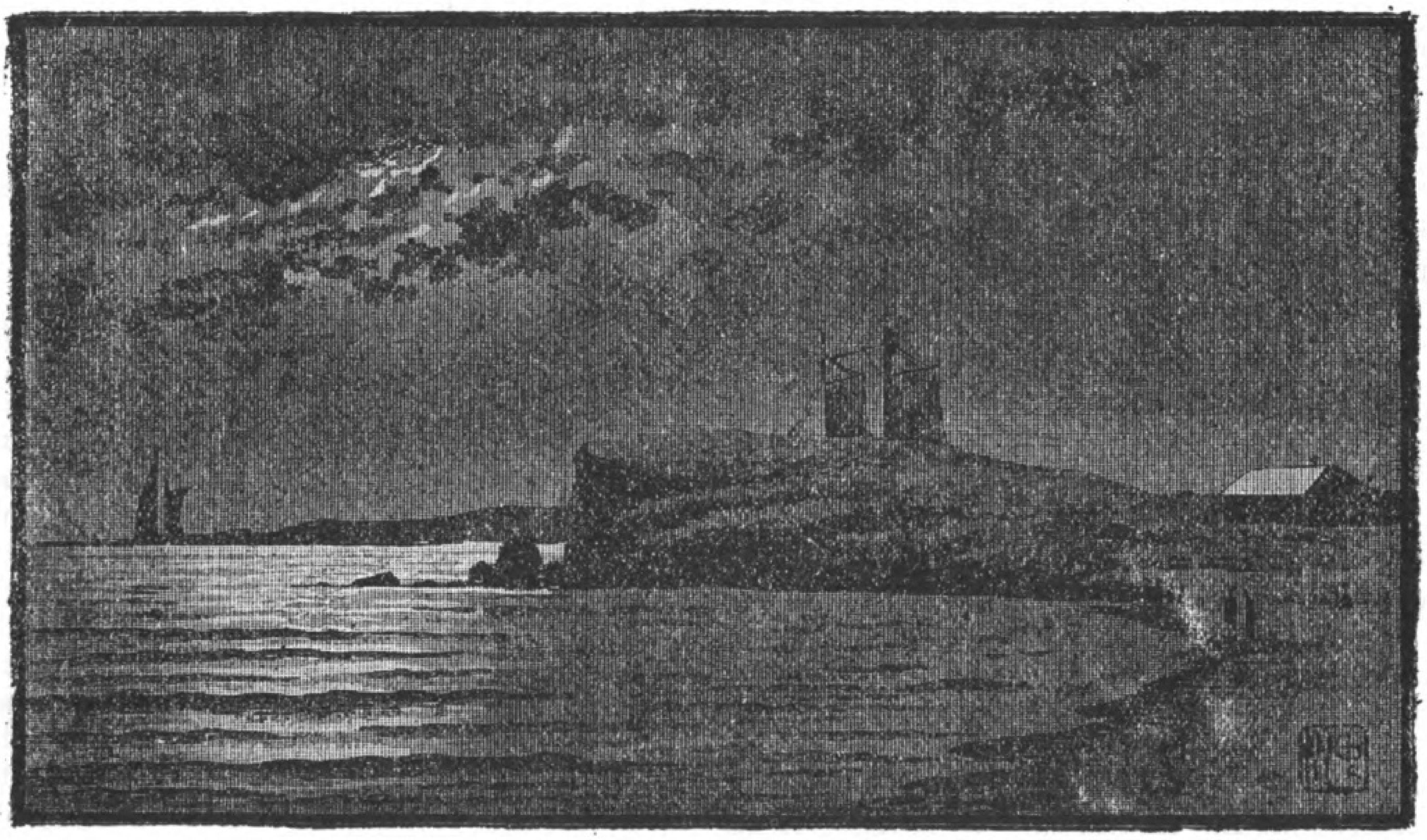
ア、老母やですか何卒少こし斯うやつて下さい而して少し考がへるとがありますからどう ぞろこを〆めて

ハイ〳〵

引きたつる伏間をぢづと見てどうと下に伏し稍や暫らくして立つて椽側より向うを見れば海面わづかに月の微光に照り漁火明滅心ぼそきと限りなし。

"Oh! was there ever tale of human love, which was not also tale of human tears? Died not sweet Desdemona? Sorrowed not Fair, Patient Imogen? And she whose name Lives among lovers, Sappho Silver-voiced, Was not the Wailing of her passionate lyre Ended for ever in the dull deaf sea?"

Matthew Arnold.



The Qualifications of a Kindergartner.

Not to my mind alone, but no doubt to many others, who are interested in educational matters, this is a subject which has occupied much thought. The study of it during the past year has made it still more interesting. My experience is not extensive, but from what I have observed in the months past, I will express my views on it.

The field before us is a broad one and lies open to be explored. We will enter step by step. As a traveller before entering a new country should not be ignorant respecting its topography, its past and present history, its geographical division and its political aspect, so should the observer of children's educational needs, obtain at the outset, a clear and comprehensive view of the whole subject.

A Kindergartner is one employed in the "Garden of children" in cultivating them. The term qualification is defined thus: any natural endowment, or any acquirement which fits a person for a place, office or employment, or enables him to sustain any character with success; also a requisite capacity or possession.

The question then arises, What are those qualifications? Who shall we find who shall be adequate to fulfill such an important position? It is a common opinion that any one can be a Kindergartner, without any special preparation or adaptation to the work; but no one who has attempted to meet the needs of a Kindergarden full of children, can believe this to be true.

As any teacher in order to succeed, must possess an unselfish pure love for pupils for whose souls she aims, even so, the Kindergartner, under whose care there are those young ones, in whose hearts the first seeds of love begin to germinate. Love is eternal, heavenly and the theory of love is to serve as the highest goal and pole star of human education. Therefore the foundation and underlying principle of the whole is *love*.

Comparing ordinary teachers with Kindergartners a greater amount of *patience* is required in dealing with infants, than with those who have passed the period of childhood. If we always kept this in mind that they are but "left hands," we would feel a deeper sympathy for them and it would be easy for us, who may sometimes be inclined, to impatience, by their slow, imperfect doings.

"Be patient with the children."
They are such tiny feet!
They have gone such a little way to meet,
The years, which are required to break,
Their steps to evenness, and make their go,
More sure and slow.

They are such little hands?
Be kind—things are so new and life but stands.
A step beyond the doorway; All around,
New day has found,
Such tempting things to shine upon and so,
The hands are tempted oft, you know.

They are such fond, clear eyes!
That widen to surprise.
At every turn!—They are so often held
To sun or showers—showers soon dispelled
By looking in our face
Love asks for much, much grace.

They are such fair, frail gifts!
Uncertain as the rifts of light,
That lie along the sky—
They may not be here by and by.
Give them not love,—but more, above,
And harder—patience with the love.

With patience may be combined the *Christian graces* to build up the completeness of the person.

"O'er wayward childhood would'st thou hold firm rule,
And sun thee in the light of happy faces:
Love, hope and patience these must be thy graces
And in thine own heart let them first keep school.—"

The teacher should be *orderly*, *neat*, *quick* and at the same time *careful* in theorizing and practising. The mind is most tenacious in childhood, and therefore any wrong impression, influences it strongly, and unconsciously grows into its nature, till at length it becomes a habit that cannot easily be cured. Wherefore, if the Kindergartner desires to see order and good traits of character in those under discipline, she herself must be quick in observation, and see that every is in its proper place and in good order. It is demoralizing both to herself and the little ones to be behind hand, so *punctuality* is one important item to be remembered. *(To be concluded.)*

By Miss. T. KAMEYAMA.

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

●新報

○貴女之友　東京教育社より去る六日に貴女之友第一號を出版せり毎月二册印行一册八錢の由編者は甞に福岡婦人協會の設立に盡力ありて夙に女學の爲に熱心ありたる甫守君なれバ女學雜誌は新に一眞友を得たることを喜ぶ、記事は家政育兒等に關するもの多けれども社說學術等温和にして宜きを得たるように思はる

○善惡の岐　中島とし女史の新作小說善惡の岐は甞に本誌上に其の端緒を掲げたるが近日之を一册にして出版すべき計畫と相成りたるに付次篇の續載を見合はせたり

○佛語女學校　下六番町佛語女學校は曾て我紙上にも掲載せし如く今春開業し僅かに數月を經過せるに貴婦人の賛成を得て入學生徒日々多く何分從來の教場にては手狹に付き今度築地明石町五番に移轉し更に科目を擴張し和、漢、英、裁縫其他西洋禮式など必要の手藝を教授せられ且つ名稱を高等佛和女學校とせられしよし開校は九月十日よりとの事なり

⊙谷君の談話　去月廿五日の夜富士見町高知倶樂部に於て同君が留別會を催ほされし際其席上にて同縣出身諸氏の夫人方に對し談話せられし要領を記さんに我日本の人口は三千八百とも申せども其半數を占めたる婦人は唯男子の努力に衣食するを知れるのみにて奴隷同然の境界を免れざる誠に殘念の次第なれば今より婦女も應分の事務を執ることを心得ざる可からず中にも此場に參られたる御夫人達に殊に注意申し度子細あり目下我日本官吏の人員は常備兵より多く到底此儘にて永續す可くも思はれねば不日人減しか或ひは一般の沿革を行はるゝやも測られず然るに唯月々の給料にのみ衣食せらるゝ家の御夫人方には一向其邊に御注意なくくして毎月主人の受取る給料を財産の利子の如く遣ひ捨てらるゝが覺束なき事共なり隣れ諸夫人達も其覺悟にて家政儉約を專一に致さるべしといふ懇切なる演說に御夫人達も互ひに顔を見合せつゝ暫くヒッソリと靜まりて何の答もなかりしと此は高知出身の夫人方に限らず鹿鳴館あたりに時めき玉ふ貴女社會にも聞かせまほしき談話にこそ

○東京慈惠醫院看護婦を募る　と題して時事新報は九月五日の紙上にて報導せしが弊社員が該院に就きて見聞せし處とは些か相違の廉もあれば詳に其詳細を報導せんに同院にては看護婦生徒と通常看護婦との二樣ありて何れも滿二十年以上三十年以下の婦人に限り(多少の斟酌はあれど)募集す通常看護婦は相當の月給を拂ひ患者の看病をなさしむる者にして學問の有無は左のみ問はざる處なれども品行方正にして尤も慈愛心に富める者を撰擇す同院は素と從來各病院の看護婦どもが入院患者の贈物の多少に依りて看護方に信不信のありし如き可厭の弊風を矯正せんとの目的に出でし者なれば同院にある者は通常看護婦と雖ども大に他に異なる處ありて看病の懇切にして扱ひ方に明るきは勿論患者の贈物などは一切之を受ることなきは社員が親しく目撃して之を知る處なり看護婦生徒は皆其方正を擇ぶは勿論にして且つ相當の教育を受けたる婦人を募集し試驗の上入院を許す事にて及第の上は毎月一圓づゝを貸與し卒業漸次之を辨償するの規則にして日々看病に必要なる理化學解剖、生理、病理、藥劑學、繃帶學等を教授し傍ら實地の看病をなさしむる者なれば醫學上の事も僻邑の藪醫などよりは反て明るき方なり募集に應ずる人々は富貴の家の令孃も多けれども全院の要とする處は只其人を擇ぶにあれば現に志ありて學資なき婦人も多く入學せり卒業期限は滿二ケ年にして卒業後は各病院の聘に應じて派遣せしむる者なりと云へり去れば一の婦人職業として修むべき事なれば慈善職業の二つを兼ね此の募りに應ぜらるべき事にこそ今回十名の貸費生を募らるゝよしなれば有志の方々は出願あるべし

⊙女教師出發　築地訓盲啞院の音樂教師米國婦人ハーレル氏は其良人が今度仙臺なる第二高等中學校の聘に應じ赴任するに付同校を辭し良人に隨ひ去る一日横濱拔錨の高砂丸に搭し仙臺へ赴きたり右に付辻文部次官を始め訓盲啞院の教師生徒其他内外の知友は皆新橋停車場まで見送りたり又同院にては其教授を受けたる生徒一同と同婦人とを撮影して婦人に贈りたりと云ふ

○日本婦人の洋裝　東京獨立新聞の記者なる米國人イーストレーキ氏は先頃歸國の途に就きしが去る八月十日桑港に到着し同夜日本國及び日本人に關する意見を述べたりとて同十一日の桑港毎週新聞に記載せしが今ま日本婦人の洋裝の一項を抄擇して左に示さん

日本は或る關係に就ては其進歩の過失に失するものあり衣服の上に就きては特に最も然りとす近頃一二の人々が洋服の便利を唱へしより上等社會一般に其流行を及ぼしたるが予ハ大に此事を賛成する能はず何となれば日本の婦人は第一其躰格の矮小なるが故に西洋服の其躰に恰好せざるのみならず之か爲め從來日本の名譽たりし風俗を一變するに至ればなり而して之れが爲めに上等社會の道

德に及ぼしたる影響は實に明かにして此頃予が日本の貴族より接手したる書信に據れば近頃西洋風流行せしより貴族中に一種の離婚あり其他湮没して世間に聞はれざるもの頗る多し且其勢ひは益々進歩するの兆あれば日本は道德の上に就ては桑港の上に出るに至るも亦遠きにあらざるべしとありたり

○婦人清話會　高知にては過般來有志婦人の發企にて婦人談話會なるものを設け改めて交際を擴め智識を交換し專ら婦女の弊風を矯正せんとの目的にて時々集會をなし又縣會議員植木枝盛坂本直寛等の諸氏を聘して矯風演舌會なるものを開く等頗ぶる盡力する甲斐ありて會員追々増加するの摸様あるも此頃婦人中に同會を誤認する者あり同會は基督教信者の成立に出でしものなれば皆々未信者の入會は許すまじと抔遺憾に思ひ居るよしなれど同會は何人にても入會を許し基督教の信不信を問はざるとの事なり

○婦人同志會　和歌山縣東牟婁郡新宮にては市川警部の妻女を始め二三の婦人が發起にて英語、算術、編物等の事を修めんがため婦人同志會と云ふを設け西京の同志社より一名及び同地の深出幸三郎氏の妻女を聘して教師となし毎週木土兩日に會同し來りしが生徒も追々増加すれば隆盛に至るは期して待つべしとの事なり

○將聖女學校　神田駿河臺袋町にある私立英和將聖女學校にては今度大に規則を改正し英國の女教師バイヨフ氏を聘し毎日英語講義及び對話等をなし專ら速成を旨とし且懇切に教授すると申す

○堺區立女學校　大坂府堺區にては今度區立女學校を設立する事に決し建築費三千圓の豫算にて同區車之町東一丁舊堺奉行所跡に建築する都合にて其建築敷地を七百坪と定め不日區役所へ買上ぐる由尤も家屋は二階構造にして建家坪數は二百五十坪を充て前面は西洋風、教場等は皆日本風にて運動場の如きも教場周邊の空地に低き山を築き之に四季の花卉草木を栽ゆるの計畫なりとの報あり

○私立女子手藝學校　去月一日より假開校せし神戸元町四丁目の同校は愈々本月一日より公然開校せしが現在生徒二十名にて其他より寄宿を望むもの多きに付き同日より望みの者は校内に寄宿せしむる事となりたりと又同校の開校式は未定なりと云ふ

○京都裁縫學校　京都下京十二組因幡藥師境内の私立京都裁縫學校にては今度教場を増築し從前の女子部を擴張し英語科の外に裁縫、作文、算術、習字等の諸科を置き且入學生徒の父兄の望みによりては更に家事、經濟、衛生、育兒、交際、唱歌、彈琴、挿花、茶道等をも懇篤に教授學校の教員巡査に限り無束脩の上に月謝金半額を收めて教授するよし

○大坂婦人學習會　從來大坂東區平野町二丁目に設けありし同會は今度都合ありて同區道修町二丁目元日本輸入新聞社跡へ移轉する由にて過日より專ら修覆中なりしが全く落成せしに付此程同所へ移轉したり

○新潟女學校　同校の發企者は去月廿九日近藤新潟縣書記官の邸に會し校舍并びに寄宿舍を同地南濱通二番町へ新築すると及び現在の校舍は今度有志者が設置する幼稚園に充つるとに決定したるよし又同校は目下夏氣休業中なるが來る十五日より授業を始むる筈にて同十二日より入學志願者の試驗を執行すると云ふ又米國より聘する女教師も來月初旬には來着する都合なりと

○明道學校　新潟明道小學校の開校式は去る四日午後三時より同地西大畑通り一番町なる天主教女學校に於て擧行せしが當日は昨年以來大試驗の女生徒の西洋編物及び日本裁縫等の物品を陳列して廣く參觀を許し近藤書記官外數名も臨席し中々盛んなる開校式にてありしと云ふ

●海外女事

○女校長婚姻　米國ウエルスレー大學の校長アリスフリーマン孃は女生にして校長の重任を負ひ學識人望ともに高く餘程有名の人なるが今度ハーバード大學の希臘語教授パルマー氏と婚姻の約を結び近日いよいよ式を擧げらるゝ由にて之を祝するが中に憾みとするものも甚だ多しと云ふ

○女教員　近來は女教員の雇はれ口も追々減少したり去年九月師範校を卒業したる女教員は今まに尚ほ其途を得ずと云へり以て女子の教員とならんとするもの英國に甚だ多きを見るべし(倫敦ウーマン)

○府政の學文　米國カンサスにて女子投票の區域大に廣まりたるとは前號の新報内にも相揭げたるが右により此頃は同州リンコルン女子投票檢會にては府政取扱方の稽古を勉强するとと定めたり

●本號には餘白なきを以て佳傳の一欄を除く

特別廣告

東京婦人矯風會々員姓名宿所表（第五回）

京橋區の部（前號に續く）

宿所		姓名
築地二丁目十七番地	特	高橋しけ
日吉町八番地	同	岩本善治
八官町二番地	同	淺野道隆
水谷町十一番地	同	加藤時二郎
木八丁堀五丁目三番地丸七商會		太田道太郎
築地一丁目十八番地		渡邊
銀座四丁目十五番地		秦ため

深川區の部

宿所		姓名
富岡門前町五番地		鈴木くわ
東森下町九十九番地小川方		本川とき
清住町二十六番地		飯田雄太郎

本所區の部

宿所		姓名
小泉町十番地	特	福田ふく

淺草區の部

宿所		姓名
馬道八丁目七番地伊勢岩方		鈴木やす
三間町二番地		齋藤りき
橋場町九番地		高村與志

赤坂區の部

宿所		姓名
榎坂町五番地		湯淺はつ
同町五番地		服部こま
同町一番地		淵澤のへ
同町五番地湯淺ハツ方		黒川つね
靈南坂		土師玉
青山南町		山内あさ

麻布區の部

宿所		姓名
笄町三番地		井深せき
靈南町十五番地		徳富ひさ
同		同　しづ
東町二十八番地		小島さき

芝區の部

宿所		姓名
愛宕下二丁目二番地		蒲井桐月
西ノ久保巴町三十六番地		中山てる

廣告

藤尾錄郎君著

實地應用 家計簿記法例題

正價金拾八錢郵送料金拾錢

曩日家計簿記法（正價四十錢郵税十六錢）の著あるや江湖之を便とし今日既に大に行はるゝを得たるは本懐に堪へず而して家を成せる紳士婦人方にありては朝夕の出納細大之が應用を試むるの機會ならざるなく之を實習するの材料に乏しからずと雖も未だ事に實際に當らざる令嬢娘子等に在ては如何なる事を記入す可きやと其趣向に當惑し玉ふ方も甚だ多しと見へ著者に就て記入法の教授を求めらるゝもの頻々なり是れ著者が其教授せしまゝを筆記して更に此例題を著はし其標準を世に示さんとせし所以なり左れば此書や内政に當らるゝ婦人方にいたるまで要なしと雖も世の幼婦少女殊に女學校の生徒等にして家計簿記を學習せんとする者には實に欲く可らざるの要具と云ふ可し

發兌 東京々橋區彌左衛門町 **經濟雜誌社**

〇賣捌 東京小林。丸善。博聞社。集成社。叢書閣。中央堂。澤屋〇大坂梅原。丸善〇京都大黒屋。集光堂〇横濱丸善〇其他書肆

● 駒込 **幼稚園生徒募集廣告**

をさな子の純白なる愛すべき腦中に施こす教育の如何は成童就學の期に於て其智力の發達に大なる關係を有するものなり余常に世の母たり保傅たる者の其教育を誤るを歎ず故に此度閑静の地を卜し幼稚園を設け専ら童兒の天性を誤まらざるよう丁寧に教導す請ふ四方の諸君其愛息愛娘をして就學せしめられん事を

駒込幼稚園主 古市しづ子

明治二十年九月 本郷森川町壹番地二百六十號 **駒込幼稚園**

遞信省認可

●明治女學校生徒募集幷びに新築落成廣告

本校漸次隆盛の域に進み從來の校舍非常の狹隘と相成り候に付き今般高燥の地を卜して校舍を新築し來る十二日を以て落成すよつて新入生徒の入學を許しかつ寄宿生を募る精細の規則は附て承知なるべし○入學志願者及び規則問合せの方は飯田町二丁目五十番地木村ふさ方明治女學校建築事務所へ來駕なるべし○規則書御望みの御方は新橋日吉町女學雜誌社へ宛てにて郵券二錢送らるれば直ちに送附すべし

東京麴町區飯田町三丁目三十二番地

明治女學校

○鈴木弘恭大人著述○小中村清矩大人評

改正増補 文法口授 全一册●一名和文獨案内 定價十八錢 郵税四錢

此書は文章家なる鈴木大人が多年諸學校の生徒に和作文を授業せられしを筆記したるものにて曩に出版したる所大に諸校の賞用を得たれば尙亦今般大人に乞ひ改正增補して古人の文章數十篇を卷尾に付し或は雅文を俗文に譯し或は漢文を和文に譯したる作例をも擧げたり然れば啻和文のみならず漢文を學ぶ人の和文を漢文に譯するにも大に益なるべし且女學校などに於て和文を學ばんとする生徒諸君の爲めには此に過たる良書なかるべし

●右文法口授は學校教科用の書籍に適當也とて發兌后一週日を經ざるに既でに成立學舍女子部及び頌榮女學校並に明治女學校長榮女塾等の教科書となりたり

○鈴木弘恭君講述○山村亮作君筆記

つれ〲草講義 定價十二錢 郵税四錢 第一號

右は鈴木弘恭君の講義ありたるを山村君の筆記せられたるものにして其解釋の綿密なる一本を机上に備ふる時は五里の霧中を出でゝ霽晴朗々たるの天色を見る心地す四方の貴娘諸子請ふ續々購讀ならん事を

東京新橋日吉町八番地

女學雜誌社

發兌					
九月。	三日	十日	十七日	廿四日	
十月。	一日	八日	十五日	廿二日	廿九日
十一月。	五日	十二日	十九日・廿六日		
十二月。	三日	十日	十七日	廿四日	三十一日

定價			
一册。	五錢	郵税。一錢	（但府内無郵税）
十册。	四十八錢	郵税。十錢	（同前）
半年分	一圓十七錢	府外は	一圓四十三錢
一年分	二圓卅四錢	府外は	二圓八十六錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を蒞するものに右雜誌十部の注文を要し以上半頁分毎に十部增の割合と定む

一行（廿七字詰）	一回	前金拾錢
同	三回以上	一割引
同	六回以上	二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絕す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學に關係ある書籍の廣告は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen.* By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.

Edited and published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8, Hiyoshichō, Shinbashi, Tōkyō, Japan.

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町巖々堂○東京芝西久保櫻川町萬春堂○東京神田區雉子町團々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新銀町良明堂○同京橋區木挽町壹丁目萬字堂○同本郷元富士町盛春堂○同本郷區春木町二丁目解明堂○東京本郷四丁目文壽堂○横濱仲吉町角田屋貞○京都四條通小橋へ入澤集光堂○同三條通東洞院西へ入クリスチアンポード○大坂備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙臺大町木村文助○尾張國名古屋本町石版舍○出雲國松江新町盛進堂○廣島縣大手町一丁目早速社○長崎酒屋町虎與號○江州彥根西内大工町新々堂○相州小田原緑町石壽堂○上州高崎田町煥平堂○勢州松坂家里初枝

發行所

本局 東京京橋區日吉町八番地 女學雜誌社

持主兼編輯 巖本善治

印刷 森田豐